
健太君

会津遊一

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

健太君

【Zコード】

N6026H

【作者名】

会津遊一

【あらすじ】

私は子供の頃、人を殺したことがある。

私は子供の頃、人を殺した事がある。

それは野原で追いかけっこをしていた時の事。

振り回していた棒で偶然にも友達を殴ってしまったのだ。

慌てて駆け寄るも、健太君は動かなくなっていた。

怖くなつた私は、キヨロキヨロと辺りを見渡した。

そして、誰にも見られていない事を確認してから、1人で逃げ帰つたのだった。

子供心に、もう駄目だ。

誰かに殺されると思った私は、帰宅後も布団の中で震えていた。

だが次の日になつても、叱られることは無かつた。

その次の日も、そのまた次の日になつても、何か言われることは無かつた。

数日後、いい加減学校に行けと親に怒られた私は渋々と登校した。すると、健太君の席に花瓶が置いてあるのが目に入ったのだ。別の友達に、

「どうしたの？」

と聞くと、

「事故で亡くなつたんだ」

と教えてくれた。

でも、私には分からなかつた。

今でも、この両手には健太君を叩いた感触が生々しく残つている。なのに事故で死んだと聞かされても、私にはピンと来なかつたのだ。呆然と立ちつくしている私を余所に、学校内に何時もと同じチャイムの音が響いたのである。

それはもう、10年以上前の話。

今では夢でつながる事も無くなっていた。

私は出社前に髪を剃っていた。

すると、何かを吸い込んだらしく、ゴホゴホと咳き込んでしまった。

「貴方、大丈夫？　顔を真っ赤にさせて」

背後から心配した妻に話しかけられた。

「ああ、平気だよ」

「カゼだったら気をつけてよね、もうすぐあの子の誕生日なんだから」

「分かっているわ」

私がひげ剃りを洗面台に戻すと、何かに気が付いた妻が一言呟いた。

「あら、でも貴方、首の廻りだけが、やけに赤いわよ」

始めは、直ぐに消えるだらうと気にしていなかつた。

だが、その赤は消えるどころか少しづつ濃くなり、徐々に何かの形に成つていったのだ。

最近では、ワイヤーシャツのボタンを全部とめても、首元からはみ出しつしまう程大きくなつていた。

全体的に広がつていくので隠しようが無い。

会社の人には虫に刺されたと説明した。

そして最後には赤いシミが、小さな子供の手が首を絞めているようにしか見えなくなつっていた。

妻には何度も病院に行くように言われたが、それは無駄だと私には解つていた。

これは健太君の呪いなのだ。

幸せの絶頂にいる私をどん底に落とすため、こいつやって嫌がらせをして楽しみ、そして殺すつもりなのだ。

自分にしてかした事が原因とはいえ、それではあまりに惨い仕打ちではないか。

罰を下すのなら、もつと早めにやつて欲しかった。

次の日、私は会社を休んで健太君を殺した野原にやつてきていた。そして大地に頭を付けて、大声で叫んだのだ。

「健太君、ごめんよ、許してくれ！ 本当は、ずっと悪いと思つていたんだ！ でも、怖くて言い出せなかつたんだよ！ 今からでも警察に出頭するよ！ だから許しておくれよ！」

私は涙を流し、何度も謝つた。

それこそ喉が張り裂けようとも、謝り続けるつもりであつた。だが、私の心からの謝罪が通じたのか、喉の辺りが軽くなつたのだ。慌てて胸元を覗いてみると、本当に例の赤いシミが消えていた。

「健太君、ありがとう」

私はもう一度、頭を下げた。

帰宅すると、妻が慌てて出かける準備をしていた。

「何か合つたのか？」

「それが子供の首の辺りが、さつき急に真つ赤になつたのよ。だから、ちょっと病院に行こうと思うんだけど。つて、貴方、どうしたの？ 顔が急に真つ青になつているわよ」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6026h/>

健太君

2010年11月13日03時07分発行